

産業建設

管外行政視察

- ・かわまちオープンパーク（宮城県石巻市）
- ・宮城県石巻市 石巻魚市場
- ・J Aながの須高営農経営センター（長野県須坂市）
- ・(株)WAKUWAKUやまのうち（長野県山ノ内町）

2/3 2/5

所管事務調査

- 3/17 陸前高田市中小企業・小規模企業振興条例の制定について



場内設備の説明を受ける同委員会（石巻魚市場）

査を継続していきます。

委員長 大坂 俊
副委員長 伊勢 純
菅野 秀一
小林 卓
及川 修

産業建設常任委員会は、2月3日から5日まで、行政視察を行いました。

石巻市では、かわまちオープンパークを見学し、エリアマネジメントや中心市街地のまちづくりを担当している、(株)街づくりまんぼうの取り組みや、今後策定される本市のかまちづくり計画に生かせる事業内容などを学びました。

石巻魚市場では、高度衛生管理型の卸売市場モデルとして再建された約900坪の規模をほこる施設の概要と、水産物のブランド化についての説明を受け、本市に還元できる取り組みだと感じました。

長野県では、初めにJ Aながの須高営農経済センター（須坂市）を視察し、果樹栽培の高温対策や事業承継の在り方な

ど、実例を踏まえて学びました。次に視察した(株)WAKUWAKUやまのうち（山ノ内町）では、にぎわいの再生をテーマに、泊食分離を掲げた観光事業などを視察しました。今後、本市でのホテル開業に伴う中心市街地の振興にもマッチした視察となり、大きな収穫であったと感じました。

所管事務調査

陸前高田市中小企業・小規模企業振興条例の制定に向け、所管事務調査を行いました。商工会、金融機関のほか、高田まちなか会の各代表者と市商政課職員を交え、条例制定の効果と条例案について説明し、意見交換を行いました。陸前高田商工会からのかねてからの強い要請に応え、委員会として条例の制定に向け調



中小企業・小規模企業振興条例について市内各団体と意見交換（陸前高田商工会館）

傍聴者の声

今回は、予算等特別委員会を傍聴した吉田定子さん（66歳・気仙町）に感想をうかがいました。

日頃から市政には関心があり、市政懇談会や議会と語る会等には積極的に参加してきましたが、今回のように予算等特別委員会（3月10日）の審査を実際に傍聴するのは初めてでした。

委員会室は議場と違い一般的な会議室でした。職員が防災服を着ていたのは大船渡市の林野火災に対応する支援本部設置に伴うものと後で知りました。

新年度予算案を巡る審査は活発な質疑が行われ、それぞれの議員がよく勉強していることが伝わりました。

特に財政調整基金の取り崩しや、ふるさと納税を見込んだ予算化は、何をするにも財源が必要という視点から、質問した複数の議員に拍手を送



予算等特別委員会で答弁する当局職員

りたくなりました。これからも市民目線の活動をお願いします。

市民が市長と議員を直接選挙で選ぶ「二元代表制」の下で市政の執行と議会の監視が適正に行われているか、関心を持つことが大切と考えていたので、今回の傍聴の機会はいへん有意義なことだと改めて気づかされました。

今後も紙面からの情報だけでなく、動画配信等も活用して、市政への関心を持ち続けたいと思います。

林野火災

大船渡市へ支援を

2月25日15時19分、小友町柳沢地内で林野火災が発生。市は災害警戒本部を設置。一部住民に避難指示を発令。大船渡市末崎町まで延焼し、約9ヘクタールを焼失。

2月26日からの第1回定例会には、当局、議員共に防災服で出席。本会議での施政方針演説を要約するなど、大幅に時間を短縮し、予定していた全員協議会や予算等特別委員会も延期。散会后、正午に鎮圧、避難指示解除。

直後の13時2分、大船渡市赤崎町合足地内で林野火災発生。市は同日「大船渡市林野火災に係る陸前高田市支援本部」を速やかに設置。令和6年3月から運用され、岩手県広域防災拠点に位置付けられている夢アリーナたかたを緊急消防援助隊の宿営地に、高田松原運動公園を防災ヘリの



緊急消防援助隊解隊式の見送り

発着基地とした。

2月27日、「大船渡市へ最大限の支援を」と市長に正副議長で申し入れ。その後、議会として災害見舞金を送付。以後の本会議、委員会等においても、支援対応に配慮しながら日程を消化。

3月9日、17時に鎮圧。避難指示は継続のため、支援体制も維持強化。19日には、緊急消防援助隊が解隊。31日に市支援本部を廃止。今後は状況を見守っていく。